

同和問題に関する

第6次意識調査結果(その四)

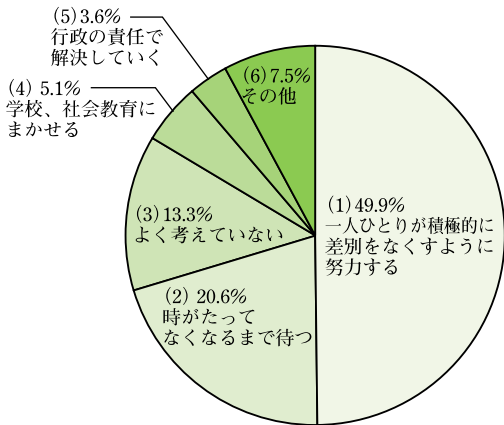
4回にわたり「同和問題に関する第6次意識調査」の結果を掲載しましたが、今回で終了します。
21世紀を「人権と共生の世紀」にしていくために、皆さん方が家庭、学校、地域社会、職場などあらゆる場において、人権を身近な問題として考え、さまざまな人権課題の解決に積極的に取り組まれますようお願いいたします。
※重複・複数・無回答があるため、合計が100%にならない場合があります。

問10

あなたは同和問題を解決するためには、どうすればよいと思いますか。
《同和問題を自分自身の問題として受け止めているかを問う設問》

「一人ひとりが積極的に差別をなくすように努力する」は、前回に比べて6ポイント増加しており、若干意識の向上が認められます。
特に若い世代では、50%を超えており、同和教育の成果が現れていると言えるでしょう。

「時がたつてなくなるまで待つ」という考え方を支持されている方も20・6%いらっしゃいます。しかし、差別を受けている立場の方々は、一刻も早く解消してほしいと願っています。私たちはそれに応えて、一日でも早い差別解消をめざさなければならぬのではないのでしょうか。

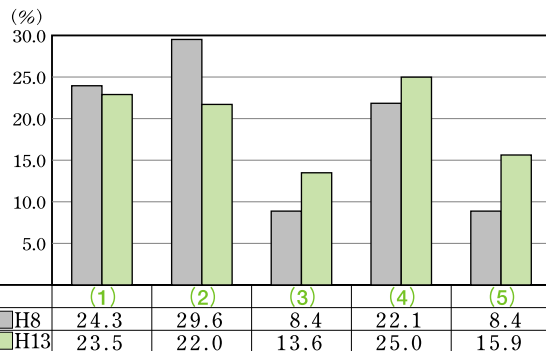


問11

今、学校や公民館、各種団体が取り組んでいる同和教育について、あなたはどのように思いますか。
《学校教育及び社会教育で取り組んでいる同和教育について、その必要性と個々の姿勢を問う設問》

「私たちの生活にかかわりがないから必要ではない」と答えた人が前回に比べて5・2ポイント増加していることから、「同和教育不要論」がわずかながら増えていることがわかります。

しかし、差別事象が今なお続いていることを考えれば、同和教育を自らのこととしてとらえ、興味や関心を引く内容や資料などを工夫して、根気強く啓発を続けていかなければならないと考えます。



- (1) 差別はまだ残っているので学習は続けなければならない。
- (2) 自分の問題として取り組むために、このような学習は必要である。
- (3) 私たちの生活にかかわりがないから必要ではない。
- (4) わからない。
- (5) その他

問12

あなたは、今後、同和問題の研修会などで、どのようなことを学習したいですか。
《今後の市民の学習ニーズを把握するための設問》

歴史的な経緯や身近な同和問題を知りたいという2項目で約半数を占めています。このご意見を今後の学習会の内容に生かしていきたいと考えています。

- ① 同和問題がどのように始まり、なぜ、今まで残されたのか。 30.2%
- ② 身近なところにある同和問題の現状 24.6%
- ③ 自分の差別意識をどう克服していったのか、正直な話を聞きたい。 4.8%
- ④ 講師の話聞くだけでなく、参加者全員が意見を述べ合って考えあうようにしたい。 7.1%
- ⑤ 差別をなくすために、私にもできることを具体的に教えてほしい。 16.7%
- ⑥ 学習したくない。 7.1%